

成果の説明書

(氏名) 関口智子	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 英語カリキュラムの運営</p> <p>必修英語の General English I, II, III, IV で毎学期実施されている CST (Common Speaking Test) は、今年度一年次および二年次両学年での実施が 5 年目をむかえた。CST の手順書を見直し、年度開始時に手順書の改訂版、ルーブリック、スコアシート、トピックカード、IC レコーダーの取説等の資料一式を Teams で配布した。必要資料をすべてデジタル化し Teams で配布することにより、従来の紙媒体での受け取りに比べ、労力と資源の節約につながっている。すでに数年 CST を経験している教員が多いが、毎学期 CST 実施の数週間前に、資料を見直し手順を確認するよう Teams で周知を行った。また、今年度 CST を初めて担当する教員に対しては、個別にアポをとり手順、採点方法等を説明した。</p> <p>過去 3 年間コロナ禍のため、Zoom を介した方法で実施していたが、今年度は、コロナ感染者が減少しているため、従来の対面方式が再開された。これを機に、各担当教員の CST の採点・評価に関して信頼性の検証を試みた。一年次および二年次のコーディネータがベンチマークとなり、各クラスの学生のスピーチを聞き採点し、実際の担当教員によるスコアと比較した。各教員のベンチマークからの偏差値を、各採点項目(内容、正確さ、分かりやすさ、総合)ごとに平均化した。これにより、各教員が学生のどこを過剰に評価しているか、あるいは過小に評価しているかを判断することができた。</p> <p>(2) GTEC 実施および二年次クラス分け</p> <p>本学では 2020 年度より、GTEC Academic (4 技能)を使用して二年次必修英語のクラス分けを実施している。昨年度受検者が一昨年度を下回ったため、今年度は従来の 2 回の周知に加えて、期末試験週間にも最後の機会として学生に受検を呼び掛けた。従来は、GTEC のスコアに基づき、合計得点上位からクラス分けを行っていたが、今年度は未受検者が多かったため、受検者と未受検者を分けてクラス編成を行った。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>(1) 通訳コンテスト出場に向けた指導</p> <p>毎年 11 月末から 12 月初旬に「学生通訳コンテスト」を開催している名古屋外国語大学より、コンテストの推薦枠 (1 名) をもらい、本学の学生 1 名を推薦した。2022 年度は、11 月 26 日 (土) 開催で、テーマは「対話による相互理解に向けて一人間が守られる社会のために」であった。今年度もコロナ禍のため、3 年連続の Zoom 開催となった。コンテスト出場準備にあたり、昨年度同様、明海大学の学生とスタディーグループを作り、週に 2 回両校の担当教員が Zoom で指導を行った。また、学生だけで勉強会も設けることにより、大学の垣根を超えて共に勉学し、他大学の学生と交流するよい機会となった。</p> <p>(2) 在外研究の準備</p> <p>来年度より 1 年国内派遣研究を行うため、「異文化間の通訳翻訳ストラテジー」というテーマで研究計画書の作成を行った。</p>	

3 次年度以降の計画・抱負

CSTに関しては、ベンチマークから乖離が大きかった教員は評価スキルの向上が望まれ、そのための指導を行っていくことが今後の課題である。

また、GTEC の受検率をどのように上げていくか、英語部会でも協議を行い様々な案が検討されている。受検率を上げる方法のみならず、GTEC 受検の継続についても検討していく予定である。その場合は、GTEC に代わるクラス分けのための試験の選定または作成、同時に拘束力を持って確実に受検させるシステムを構築していく必要がある。